

- ・A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は都全体として**警報レベル**が続いています
- ・咽頭結膜熱（プール熱）は都の定点当たり報告数が1.93と、**警報レベル**が続いています。
- ・インフルエンザは都の定点当たり報告数が19.22と、**注意報レベル**が続いています。
- ・感染性胃腸炎の都の定点当たり報告数は、前週より減少しましたが、引き続き注意が必要です。

全数報告対象疾患

- （五類）梅毒 1件
 - ・（20代女性）病型は早期Ⅰ期、推定感染地は国内、推定感染経路は異性間性的接触

定点把握対象疾患

定点医療機関当たり患者報告数 ◆ 2023 北区
(定点医療機関からの患者報告数÷定点医療機関数) — 2023 東京都

新型コロナウイルス感染症

※令和5年5月8日より定点把握対象疾患に移行しました。



Topics

海外旅行から帰ったら

海外旅行は時差や気温の変化、気候の違い、長時間の旅行などにより、心身に大きなストレスがかかります。また、渡航先の国によっては、日本で発生していない感染症が流行していて、思いもかけない感染症にかかることがあります。海外で流行している感染症については、検疫所のホームページをご覧ください。(<https://www.forth.go.jp/index.html>)
旅行に行く前に、渡航先の感染症情報の確認と、感染症に対する正しい知識と予防のための方法を身に付けることが大切です。感染予防には**ワクチン接種**が有効です。渡航のためのワクチン接種を実施している医療機関、トラベルクリニックの情報はホームページでご確認ください。(<https://www.forth.go.jp/moreinfo/vaccination.html>)

- 特に**麻しん**は空気感染し、**感染力も大変強い**ため、手洗い・マスクのみで予防はできません。麻しんワクチンをすることで、麻しんの発症を予防できる可能性があります。
- ・麻しんのり患歴がなく、**2回の予防接種歴**が明らかでない場合は、早めに予防接種を検討してください。
 - ・予防接種歴については母子手帳などをご確認ください。

<旅行から帰ったら>

- ・現地で感染症にかかっても、潜伏期があるので感染してもすぐには発病しません。熱帯を中心として海外には潜伏期間の長い感染症が数多くあります。
- ・通常日本には存在しない感染症の場合は診断が遅れ、それが命にかかわることもあります。
- ・海外旅行から帰った後、**2か月程度**は、自身で健康管理に心がけましょう。
- ・発熱、発疹、下痢、嘔吐など体調に異常があれば**登園、登校、出勤などを控え、早めに医療機関を受診**しましょう。その際、**必ず海外に行ってきたことを医師に告げた上で**相談してください。



定点把握対象疾患

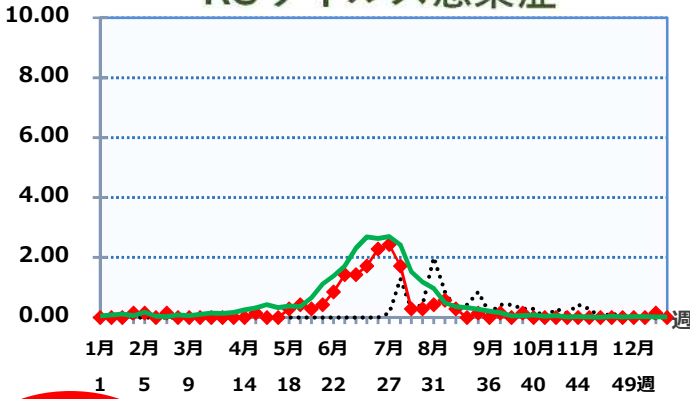
定点医療機関当たり患者報告数
(定点医療機関からの患者報告数÷定点医療機関数)

..... 2022 北区
 ◆ 2023 北区
 — 2023 東京都

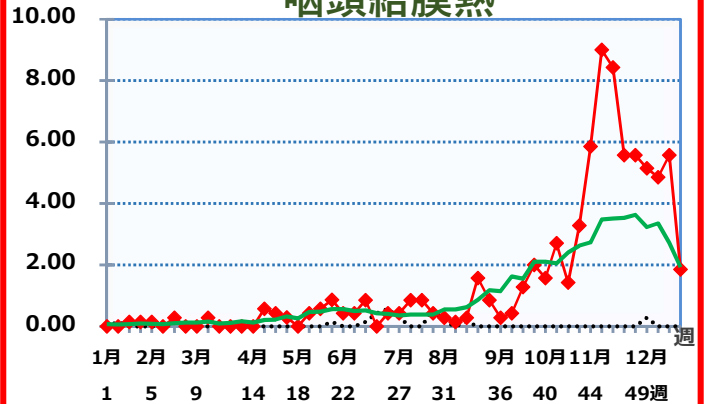
警報

警報レベルが続いており、注意が必要です。

RSウイルス感染症



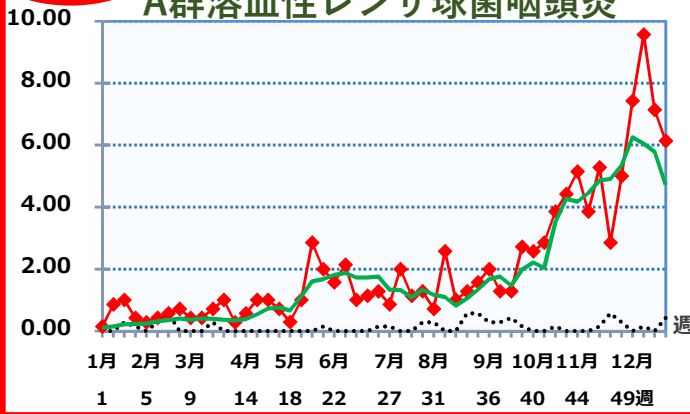
咽頭結膜熱



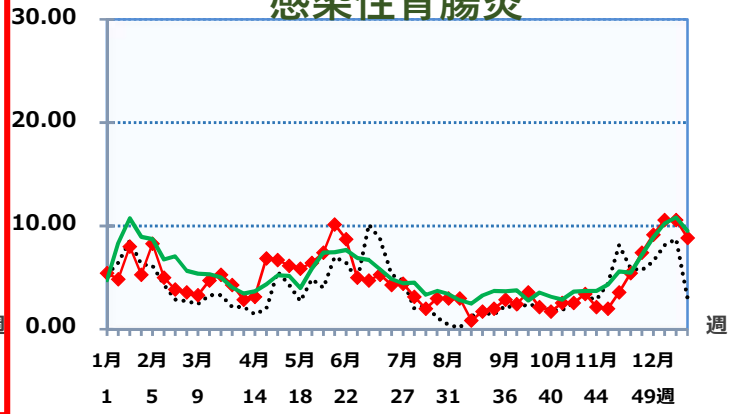
警報

警報レベルが続いており、注意が必要です。

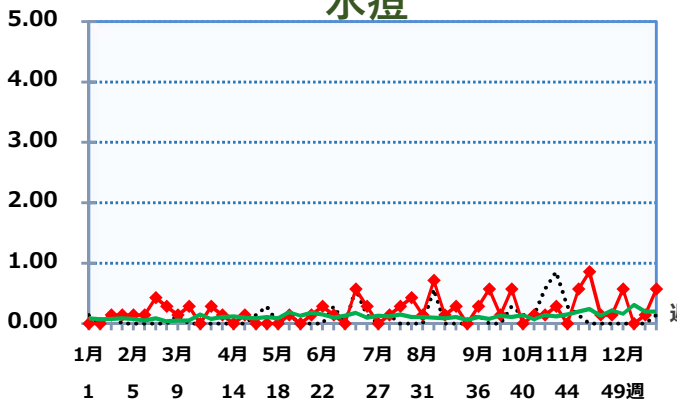
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎



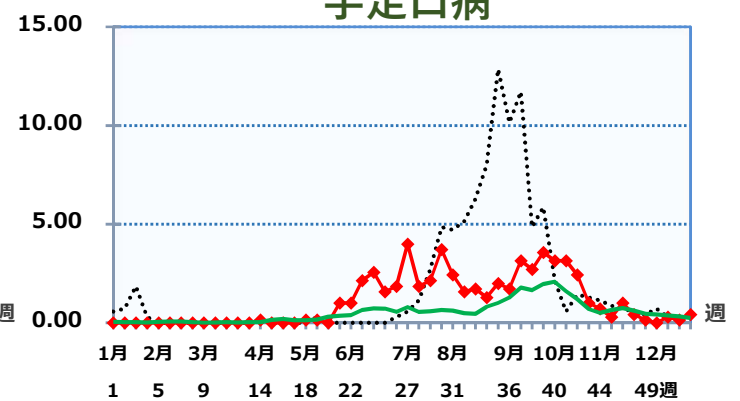
感染性胃腸炎



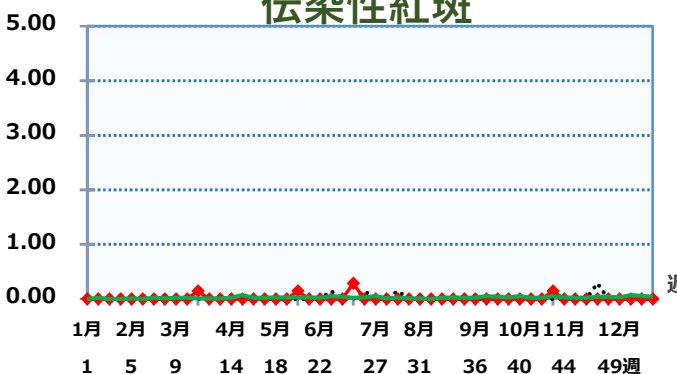
水痘



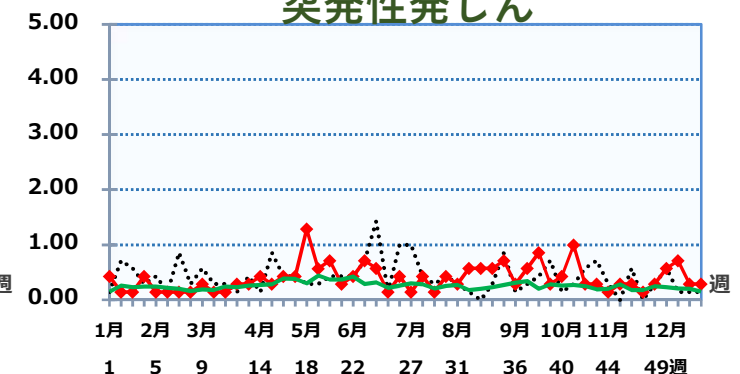
手足口病



伝染性紅斑



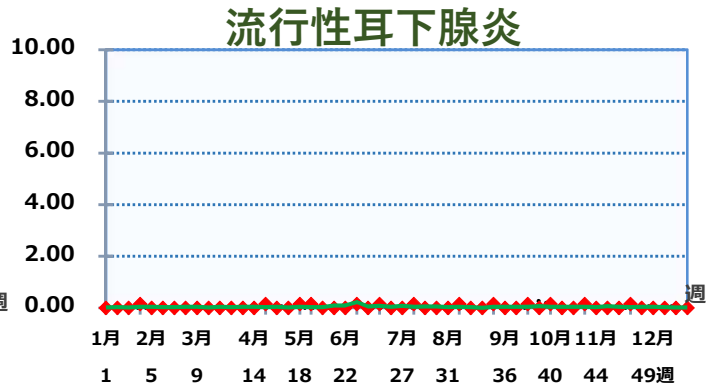
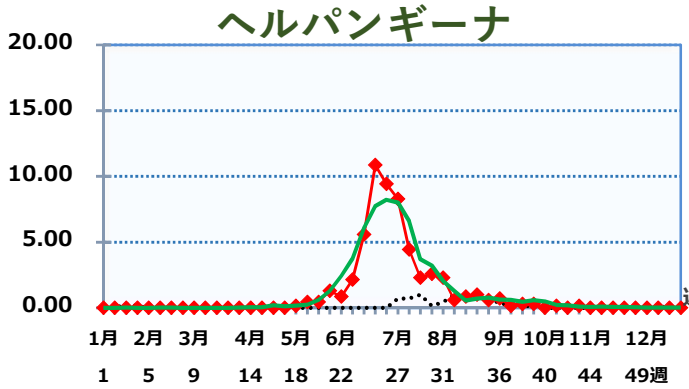
突発性発しん



定点把握対象疾患

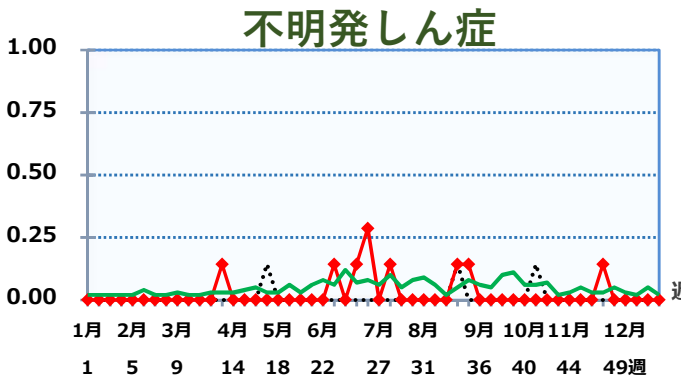
定点医療機関当たり患者報告数
(定点医療機関からの患者報告数÷定点医療機関数)

..... 2022 北区
◆ 2023 北区
— 2023 東京都



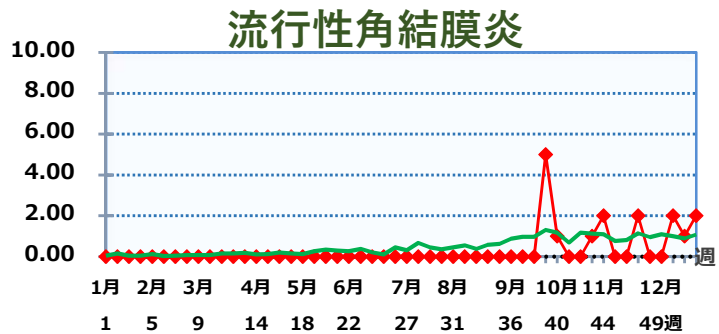
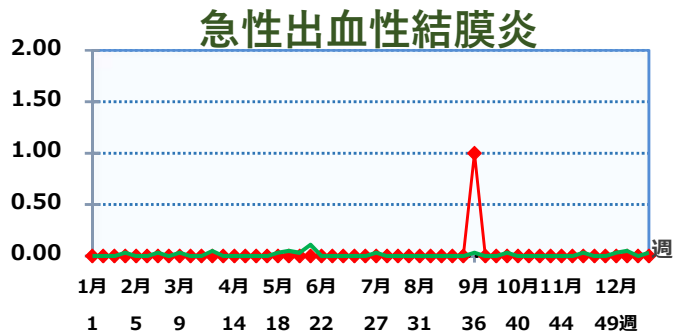
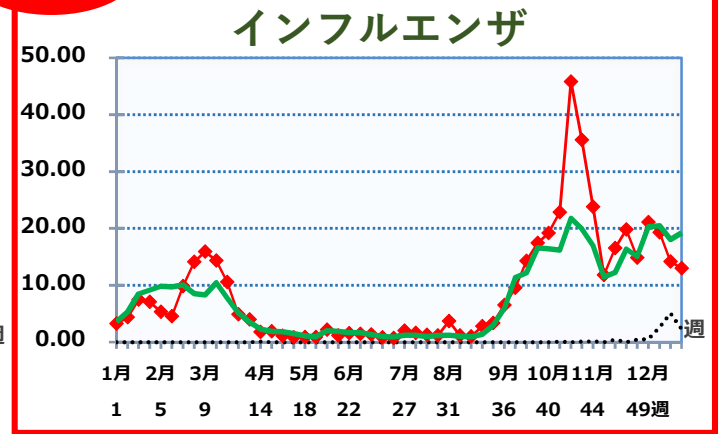
川崎病

北区 : 定点医療機関当たり患者報告数 : 0.00
 東京都 : 定点医療機関当たり患者報告数 : 0.02



注意

注意報レベルが続いており、注意が必要です。



性感染症 (2023年11月分まで) ※梅毒は「全数報告対象疾患」に掲載しています。

2023年12月分は2023年第53週号にて掲載予定です。

